

第13回 The 13th Annual Meeting of
Japanese Society of Drug Informatics

JASDI

日本医薬品情報学会

総会・学術大会

メインテーマ

職種を超えて担う医薬品情報

会期

2010年
7月24日(土)・25日(日)

会場

アクトシティ浜松
コンgressセンター

大会長 山田 浩 静岡県立大学薬学部教授

実行委員長 大貫よし子 聖隷浜松病院薬剤部長

主催：日本医薬品情報学会 共催：聖隷浜松病院

後援：日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、
静岡県病院薬剤師会、静岡県薬剤師会

第13回 The 13th Annual Meeting of Japanese Society of Drug Informatics JASDI
日本医薬品情報学会

総会・学術大会

メインテーマ

職種を超えて担う医薬品情報

会期 2010年 7月24日(土)・25日(日)

会場 アクトシティ浜松 コンgressセンター

〒430-7790 浜松市中区板屋町 111-1

TEL : 053-457-1111

大会長 山田 浩 静岡県立大学薬学部教授

実行委員長 大貫よし子 聖隷浜松病院薬剤部長

■主催：日本医薬品情報学会 ■共催：聖隷浜松病院

■後援：日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、
静岡県病院薬剤師会、静岡県薬剤師会

INDEX

大会長挨拶	1
会場アクセス	2
会場案内図	3
大会日程表	4
参加者へのご案内	6
プログラム	11
一般プログラム	17

要旨

特別講演	25
教育講演1	26
教育講演2	27
大会長講演	28
シンポジウム1	31
シンポジウム2	37
シンポジウム3	43
シンポジウム4	49
一般演題1 (7月24日 第B会場)	59
一般演題2 (7月24日 第C会場)	71
一般演題3 (7月24日 第C会場)	83
一般演題4 (7月25日 第B会場)	95
一般演題5 (7月25日 第C会場)	107
一般演題6 (7月25日 第B会場)	121
協賛企業一覧	133

大会長挨拶

第13回日本医薬品情報学会総会・学術大会 開催にあたって

第13回日本医薬品情報学会総会・学術大会

大会長 山田 浩 静岡県立大学薬学部 教授

日本医薬品情報学会は、昨年第12回総会・学術大会が大石了三大会長のもと福岡で開催されました。昨年のテーマ「医療現場に根差した医薬品情報」を受け、今年はアカデミア（静岡県立大学）と医療現場（聖隷浜松病院）が協働する形で、浜松市でお世話させていただくこととなりました。静岡県で開催されるのは、本学会の1998年設立以来、初めてのこととなります。

第13回総会・学術大会は7月24（土）、25（日）の両日、アクトシティ浜松コンgresセンターにて開催いたします。静岡県、愛知県ほか中部地区の先生を中心に実行委員会を立ち上げ、大会テーマとしましては、医薬品情報を医療現場で有効に役立てるための医療チームの重要性を考え「職種を越えて担う医薬品情報」を掲げました。

本大会では、特別講演、大会長講演、教育講演、シンポジウム、一般発表等を行います。特別講演には、自治医科大学地域医療学センター（公衆衛生学部門）の尾身茂教授に「これからの日本の医療・世界の医療－新型インフルエンザ対策から学ぶこと－」と題して講演いただきます。また、教育講演としては、「医薬品情報学に必要な EBM・疫学技法」（東京大学・津谷喜一郎先生）、「サプリメントに関する適正な情報マネジメント」（国立健康・栄養研究所・梅垣敬三先生）の2つをお願いしています。

シンポジウムとしましては、「地域医療連携における医薬品情報の共有」、「安全性情報を活用するための課題」、「生活習慣病領域のスイッチ OTC 化に向けた薬剤師の職能研究と再教育」、「医薬品情報学研究を考える！若き研究者が語る」の4つを企画し、大学、病院および薬局の薬剤師の方々、また医師、看護師ほか医療チームの方々にも非常に役に立つ内容とすべく、座長、オーガナイザーの先生方を中心に企画いただきました。

学会会場は JR 浜松駅から徒歩3分と大変便利なところにあります。実りある学会となりますよう、皆様方の積極的なご参加並びに活発なご討論を何卒よろしくお願い申し上げます。

会場アクセス



お車をご利用の方

東名高速: 東京より浜松I.C.まで、230km・約2時間30分 / 大阪より浜松西I.C.まで、274km・約3時間
※各インターよりアクトシティ浜松までは約30分



新幹線をご利用の方

新幹線: 東京、大阪より浜松駅まで、ひかり約1時間30分、こだま約2時間
名古屋より浜松駅まで、ひかり約35分、こだま約50分



富士山静岡空港からのアクセス

①バス・電車でお越しの場合・新幹線利用の場合約41分、在来線利用の場合約57分
静岡空港→(バス約30分)→掛川駅→(新幹線11分・在来線約27分)→浜松駅

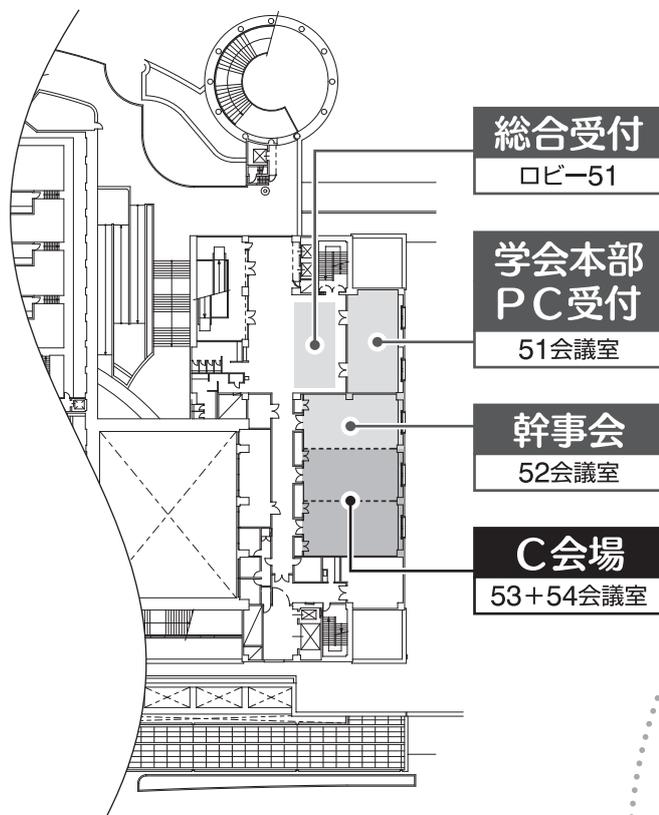
②車でお越しの場合・約51分

静岡空港→(約10分)→相良牧之原IC→(約21分)→浜松IC→(約20分)→アクトシティ

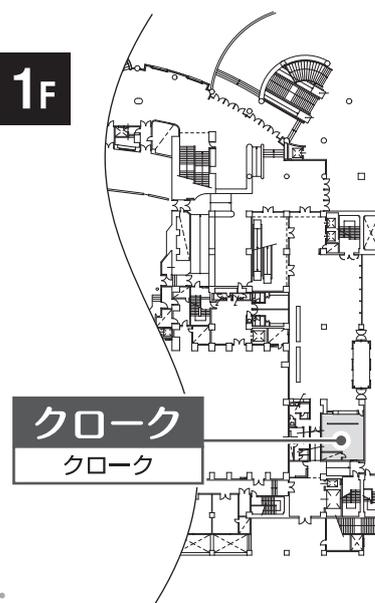
会場案内図

アクロシティ浜松 コンgressセンター

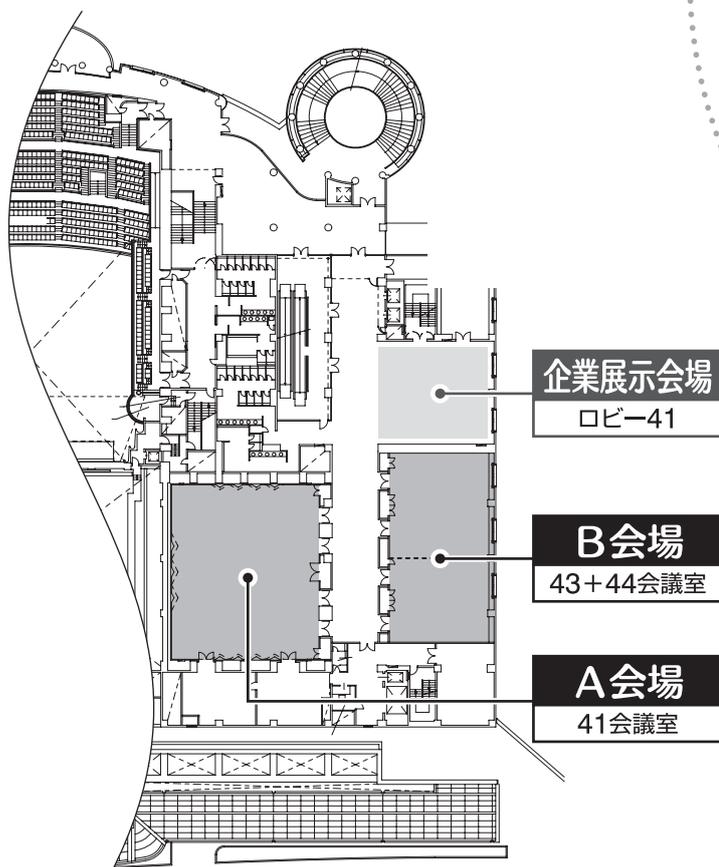
5F



1F



4F



大会日程表

第1日目 7月24日(土)

	A会場 / 41会議室	B会場 / 43+44会議室	C会場 / 53+54会議室	企業展示 / ロビ-41
9:00				
10:00	10:10~10:15 開会の辞 山田 浩			9:30~17:30
11:00	10:15~12:15 シンポジウム1 地域医療連携における医薬品情報の共有 もう一つの医薬品情報源、お薬手帳 ～円滑な地域医療連携に向けて～ 座長:林 昌洋 飯嶋 久志	10:15~12:09 一般演題 ① …………前半………… 座長:平井 みどり …………後半………… 座長:北川 俊朗	10:15~12:09 一般演題 ② …………前半………… 座長:賀川 義之 …………後半………… 座長:大津 史子	
12:00				
13:00	12:30~13:30 ランチョンセミナー1 超高齢社会における 骨粗鬆症の治療戦略 講師:森 諭史 / 座長:高田 晃 共催:エーザイ(株)	12:30~13:30 ランチョンセミナー2 がん化学療法における制吐療法 up to date ～肺癌化学療法と第2世代5HT3受容体拮抗薬 アロキシを中心として～ 講師:小倉 高志 / 座長:野毛 一郎 共催:大鵬薬品工業(株)		企業展示
14:00	13:45~14:25 大会長講演 職種を超えて担う医薬品情報 講師:山田 浩 / 座長:澤田 康文			
15:00	14:30~15:30 特別講演 これからの日本の医療・世界の医療 -新型インフルエンザ対策から学ぶこと- 講師:尾身 茂 座長:山田 浩			
16:00	15:45~17:45 シンポジウム2 安全性情報を活用するための課題 医薬品の安全な使用と医薬品情報 -情報発信者と情報利用者のそれぞれの役割- 座長:望月 真弓 後藤 伸之	15:45~17:45 シンポジウム3 生活習慣病領域の スイッチOTC化に向けた 薬剤師の職能研究と再教育 座長:黒澤 菜穂子 上村 直樹	15:45~17:51 一般演題 ③ …………前半………… 座長:政田 幹夫 荒 義昭 …………後半………… 座長:大森 栄 大石 順子	
17:00				
18:00	18:15~20:00	懇親会 会場:オークラクトシティホテル浜松 3F チェルシー		

第2日目 7月25日(日)

A会場 / 41会議室	B会場 / 43+44会議室	C会場 / 53+54会議室	企業展示 / ロビー41
9:00~9:30 総会			9:00~14:30 9:00
9:40~10:30 教育講演1 医薬品情報学と薬剤疫学: エビデンスを「つたえる」ことと「つくる」こと 講師:津谷 喜一郎 / 座長:川上 純一	9:40~11:46 一般演題 ④ 前半, 座長:中村 敏明 後藤 伸之 後半, 座長:下平 秀夫 村井 ユリ子	9:40~11:58 一般演題 ⑤ 前半, 座長:下堂 権洋 上原 恵子 後半, 座長:園田 正信 橋口 正行	10:00 11:00
10:40~11:30 教育講演2 サプリメントに関する適正な 情報マネージメント 講師:梅垣 敬三 / 座長:賀川 義之			12:00 企業展示
12:15~13:15 ランチョンセミナー3 CKDチーム医療における 薬剤師の役割 講師:磯崎 泰介 / 座長:後藤 誠一 共催:大日本住友製薬(株)	12:15~13:15 ランチョンセミナー4 スポーツ選手として ドーピングについて思うこと 講師:水鳥 寿思 / 座長:山本 将之 コーディネーター:大石 順子 共催:大塚製薬(株)		13:00
13:45~15:45 シンポジウム4 医薬品情報学研究を考える! 若き研究者が語る オーガナイザー:澤田 康文 座長:折井 孝男 若林 進	13:45~15:39 一般演題 ⑥ 前半, 座長:木津 純子 後半, 座長:太田 隆文		14:00 15:00
次期大会長挨拶、閉会の辞 澤田 康文			16:00
			17:00
			18:00

参加者へのご案内

1. 参加受付について

1) 受付場所・時間

アクトシティ浜松コンgresセンター 5階 ロビー
7月24日(土) 9:30～17:30 7月25日(日) 8:30～14:30

2) 参加登録

【当日参加登録】

会 員	非会員	学 生	懇親会(一般)	懇親会(学生)
7,000円	9,000円	2,000円	5,000円	1,000円

●事前参加登録済みの方：

事前に送付しました参加証(ネームカード)をご持参の上、会場内では必ずご着用下さい。
参加証(ネームカード)のない方はご入場をお断りする場合がございます。

●当日参加登録の方：

大会当日参加をされる方は、当日参加受付にてご登録下さい。お支払いは、すべて現金でお願いいたします。

会場内では必ず参加証(ネームカード)をご着用下さい。

●講演要旨集の販売について：

講演要旨集販売価格は2,000円です。総合受付にて販売いたします。

3) 懇親会

日 時：7月24日(土) 18:15～

場 所：オークラアクトシティホテル浜松 3階 チェルシー

●事前に懇親会への事前登録をされた方は、参加証(ネームカード)にあらかじめ参加シールが貼付してあります。

●当日懇親会への参加を希望される方は、参加受付にてご登録下さい。お支払は、すべて現金でお願いいたします。懇親会費と引き換えに参加シールをお渡しいたします。

2. 日本医薬品情報学会(JASDI)への新規入会について

日本医薬品情報学会(JASDI)への新規入会をご希望の方は、総合受付におたずね下さい。
(5階ロビー)

3. 日本薬剤師研修センター認定シールの交付

本学術大会は、日本薬剤師認定センターの認定対象となります。(2日間の参加で6単位)

学術大会1日目(7月24日)と2日目(7月25日)共に、認定シール(5階ロビー)にて受付をして下さい。2日目(7月25日)最終日に認定シールを6単位交付いたします。

*1日のみ参加の場合は認定シールの交付はできません。

4. 日本医薬品情報学会 幹事会

7月24日(土) 11:30～13:30 5階 52会議室にて開催いたします。

5. 日本医薬品情報学会総会

7月25日(日) 9:00～9:30 4階 A会場(41会議室)にて開催いたします。

多数のご出席をお願いいたします。

6. ランチョンセミナー

下記の日時・場所にてランチョンセミナー1～4の整理券を配布いたします。
会場の都合により入場数に制限がありますので、ご了承下さい。

【整理券配布】場 所：5階ロビー C会場前

日 時：7月24日(土) 9:30～ ランチョンセミナー1・2

日 時：7月25日(日) 8:30～ ランチョンセミナー3・4

*ランチョンセミナー開始後に整理券は無効となります。

7. 企業展示・書籍展示

会期中4階ロビーにて、企業展示および書籍展示を以下のとおり行います。

【企業展示】日 時：7月24日(土) 9:30～17:30

7月25日(日) 9:00～14:30

【書籍展示】日 時：7月24日(土) 9:30～17:30

7月25日(日) 9:00～14:30

8. ドリンクサービス

4階ロビーにドリンクコーナーを設けます。ご自由にご利用下さい。

9. クローク

会期中1階に特設クロークを設置いたしますのでご利用下さい。尚、貴重品や壊れやすいもの(コンピューター等)はお預かりできませんので、あらかじめご了承下さい。

【開設時間】7月24日(土) 9:30～18:00 7月25日(日) 8:30～16:00

10. 呼び出し、伝言

会場内サイドスクリーンおよび館内放送での呼び出しは原則として行いません。総合受付近くの会員連絡版をご利用下さい。尚、緊急の場合は、大会本部(5階51会議室)へお越し下さい。

11. 座長(一般演題)へのご案内

1. 各セッション開始30分前までに5階ロビー「座長受付」にお越し下さい。
2. 座長受付を済まされた後、15分前までに会場内右手前方の次座長席にご着席下さい。
3. 一般演題の発表時間は1演題12分(講演8分、質疑4分)となっております。時間を厳守し円滑な進行にご協力下さいますようお願いいたします。

12. 演者(一般演題)へのご案内

1. 一般演題は、Windows版Microsoft PowerPointによるPC発表に限らせていただきます。プロジェクターは1台のみ使用可能です。
2. 原則として、こちらで準備した会場設置のPC(Windows)を使用し、操作は舞台上にあるキーボードとマウス・ディスプレイを使用し、演者自身で行っていただきます。
3. Windowsにてデータを作成された場合はCD-RまたはUSBフラッシュメモリに保存してご提出下さい。
 - * Macintoshにてデータを作成された場合は、最終的に必ずWindowsに変換した後保存していただくか、Macintosh本体をご持参下さい。
 - * 動画が含まれる場合は、PC本体をご持参下さい。

4. 各演者は講演1時間前までに、大会本部(5階 51会議室)内のPC(演者)受付にて、演者自身が試写し「ずれ」や「文字化け」等がないことをご確認下さい。
5. 発表時間は座長の指示に従って下さい。1演題12分(講演8分、質疑4分)で行います。
6. PC 受付が済んだ後は、15分前までに会場内左手前方の次演者席にご着席下さい。

● USB フラッシュメモリをご提出いただく方へ (Windows のみ)

ご発表データは PowerPoint 2000、2002、2003 または 2007 で作成し、以下のフォントをご使用下さい。

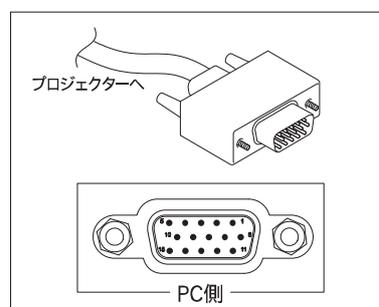
[日本語] MS ゴシック・MSP ゴシック・MS 明朝・MSP 明朝

[英語] Times New Roman・Arial・Arial Black・Arial Narrow・Century・Century Gothic・Courier・Courier New・Georgia

- アニメーション・動画のご利用は可能ですが、動画データは Windows Media Player で再生できるように作成して下さい。
 - ご用意いただく USB フラッシュメモリのウイルスチェックを事前に行って下さい。
 - 持ち込まれるメディアには、当日発表されるデータ以外入れないようにして下さい。
 - バックアップとして予備のデータをお持ちいただくことをお勧めいたします。
 - ご発表開始時刻の1時間前までに大会本部(5階 51会議室)内のPC(演者)受付にてご発表のデータを試写確認の上、ご提出下さい。最初のセッションの時間帯ではPC(演者)受付が混雑しますので、お早めにPC 受付をお済ませ下さい。
- * お預かりしたデータは、本大会プレゼンテーション以外の目的で使用することはありません。本大会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。

● PC 本体をご持参いただく方へ

- 利用機種・OS・アプリケーションに制限はありませんが、D-sub 15ピンによるモニター出力が必要です。ご持参いただく PC から D-sub 15ピンへの変換コネクタが必要な場合には、各自でご用意下さい。D-sub 15ピン以外の接続はお受けできませんので予めご了承下さい。
- 動画もご利用いただけますが、再生はできる限り、ご自身の PC 本体で発表下さい。
- スクリーンセーバー、ウイルスチェックならびに省電力設定は予め解除しておいて下さい。
- AC アダプター(電源ケーブル)を必ずご持参下さい。バッテリーでのご使用はトラブルの原因となります。
- 発表開始時刻の1時間前までに、大会本部(5階 51会議室)内のPC(演者)受付にて試写を行って下さい。試写確認後、発表会場内左手前方のPCオペレーション席まで各自でPCをご持参下さい。最初のセッションの時間帯ではPC(演者)受付が混雑しますので、お早めに受付をお済ませ下さい。
- PC(演者)受付ならびにPCオペレーション席ではデータの修正・変更は行えません。



[mini D-sub 15pin] コネクタ形状

プログラム

第 A 会場 7月24日(土)

10:10～ 開会の辞 大会長：山田 浩（静岡県立大学薬学部）

10:15～12:15 シンポジウム1

地域連携における医薬品情報の共有
もう一つの医薬品情報源、お薬手帳
～円滑な地域医療連携に向けて～

座長：林 昌洋（虎の門病院 薬剤部）
飯嶋 久志（社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センター）

S1-1 かかりつけ手帳を活用した地域医療連携への関わり
瀧 祐介（菊川市立総合病院薬剤科）

S1-2 薬局から提供する情報と受取れる情報 ～地域連携での保険薬局の役割～
高橋 眞生（株式会社カネマタ カネマタ薬局）

S1-3 自立高齢者の口腔機能情報の活用について
～一生の口腔機能維持を目的とした健診の提案～
日暮 寛之（社団法人千葉県歯科医師会 地域保健医療委員会）

S1-4 お薬手帳型 C 型慢性肝炎治療地域連携パスの有用性
～横浜市東部地域における保険薬局を介した取り組み～
江口 裕三（済生会横浜市東部病院薬剤部）

追加発言 山室 渡（済生会横浜市東部病院 消化器内科）

12:30～13:30 ランチョンセミナー1

共催：エーザイ株式会社

座長：高田 晃（磐田市立総合病院）

超高齢社会における骨粗鬆症の治療戦略

森 諭史 聖隷浜松病院 骨関節外科

13:45～14:25 大会長講演

座長：澤田 康文（東京大学大学院薬学系研究科）

職種を超えて担う医薬品情報

山田 浩 静岡県立大学薬学部

【 これからの日本の医療・世界の医療
— 新型インフルエンザ対策から学ぶこと — 】

尾身 茂 自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門

15:45～17:45 シンポジウム2

[安全性情報を活用するための課題]

医薬品の安全な使用と医薬品情報 — 情報発信者と情報利用者のそれぞれの役割 —

座長：望月 眞弓（慶応義塾大学 薬学部）

後藤 伸之（名城大学薬学部 医薬品情報学研究室）

S2-1 製薬企業における安全性情報の創出とその発信
～市販後の安全を確保するために その取り組みと課題～
浅田 和広（日本製薬工業協会 医薬品評価委員会）

S2-2 安全性情報の評価の現状と課題 — PMDA の立場から
奥平 朋子（医薬品医療機器総合機構）

S2-3 安全性情報活用の現状と課題 ～中小病院の立場から～
荒木 隆一（社会保険 高浜病院薬剤部）

S2-4 患者も情報を求め、学ぶ時代
花井 美紀（NPO 法人 ミーネット）

第 B 会場 7月24日 田

12:30～13:30 ランチョンセミナー2

共催：大鵬薬品工業株式会社

座長：野毛 一郎（沼津市立病院）

【 がん化学療法における制吐療法 up to date
～肺癌化学療法と第2世代5HT3受容体拮抗薬アロキシを中心に～ 】

小倉 高志 神奈川県立循環器呼吸器センター 呼吸器科

[生活習慣病領域のスイッチ OTC 化に向けた薬剤師の職能研究と再教育]

座長：黒澤菜穂子(北海道薬科大学医薬情報解析学分野)
上村 直樹(東京理科大学薬学部)

S3-1 生活習慣病のセルフメディケーションと保険薬局薬剤師の役割：
スイッチ OTC 薬剤の活用
平井 愛山(千葉県立東金病院)

S3-2 製造販売業者から薬剤師への情報提供について
古澤 康秀(明治薬科大学)

S3-3 生活習慣病領域医薬品の OTC 化における薬剤師職能とそれを取り巻く環境
宮崎長一郎(有限会社 宮崎薬局)

S3-4 スイッチ OTC 市場拡大に伴う薬剤師の責務増加と職能教育の重要性
川村 和美(スギメディカル株式会社)

第 A 会場 7月25日(日)

9:00～9:30 総 会

9:40～10:30 教育講演1

座長：川上 純一(浜松医科大学附属病院 薬剤部)

[医薬品情報学と薬剤疫学：エビデンスを「つたえる」と「つくる」こと]

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

10:40～11:30 教育講演2

座長：賀川 義之(静岡県立大学薬学部)

[サプリメントに関する適正な情報マネジメント]

梅垣 敬三 (独)国立健康・栄養研究所 情報センター

ランチョンセミナー3 12:15～13:15

共催：大日本住友製薬株式会社

座長：後藤 誠一(掛川市立総合病院)

[CKD チーム医療における薬剤師の役割]

磯崎 泰介 聖隷浜松病院 腎臓内科

[医薬品情報学研究を考える!若き研究者が語る]

オーガナイザー：澤田 康文(東京大学大学院薬学系研究科)
座長：折井 孝男(NTT 東日本関東病院 薬剤部)
若林 進(杏林大学医学部附属病院 薬剤部)

S4-1 ビジョン委員会報告書について

山田 安彦(東京薬科大学薬学部)

S4-2 医薬体内動態における薬物トランスポーターの重要性

楠原 洋之(東京大学大学院薬学系研究科 分子薬物動態学教室)

S4-3 臨床薬理学の研究者の立場から

内藤 隆文(浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部)

S4-4 薬剤疫学の研究者の立場から

佐藤 嗣道(東京大学医学部 薬剤疫学)

S4-5 社会薬学の研究者の立場から

櫻井 秀彦(北海道薬科大学社会薬学系 薬事管理学分野)

S4-6 医療経済学の研究者の立場から

坂巻 弘之(名城大学薬学部 臨床経済学研究室)

S4-7 知的財産の研究者の立場から

加藤 浩(日本大学大学院知的財産研究科)

指定発言 山崎 幹夫(新潟薬科大学)

17:00～ 次期大会長挨拶、閉会 澤田 康文(東京大学大学院薬学系研究科)

第 B 会場 7月25日(日)

12:15～13:15 ランチョンセミナー4

共催：大塚製薬株式会社

座長：山本 将之(三重県薬剤師会 理事)
コーディネーター：大石 順子(静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター)

[スポーツ選手としてドーピングについて思うこと]

水鳥 寿思 徳洲会体操クラブ

一般演題プログラム

10:15～12:09 一般演題 1

座長：平井みどり（神戸大学医学部附属病院薬剤部）

- 1-01** 当院における造影剤副作用の再発防止への取り組み
渥美位知子（聖隷浜松病院 薬剤部）
- 1-02** 県西部浜松医療センターにおけるプレアボイド報告
玉腰 彩乃（県西部浜松医療センター 薬剤科）
- 1-03** ジスチグミン臭化物錠に対する安全性情報の活用
松下 久美（菊川市立総合病院 薬剤科）
- 1-04** ジスチグミン臭化物錠の添付文書改訂情報の院内周知体制と効果
大野 能之（東京大学医学部附属病院 薬剤部）
- 1-05** 医薬品の適正使用について
－医薬品副作用被害救済制度の請求事例からの検討－
庄司奈緒子（医薬品医療機器総合機構）

座長：北川 俊朗（菊川市立総合病院薬剤部）

- 1-06** サレド導入患者への意識調査
佐原 琴美（聖隷浜松病院）
- 1-07** 危険薬リスト作成に向けて看護師へのアンケートで見えたもの
－薬剤師と看護師の認識の違い－
太田 敦代（磐田市立総合病院 薬剤部）
- 1-08** 患者の安全を確保するための医薬品安全性情報の収集と活用の実態
－アンケート調査より－
林 恭子（名城大学 薬学部 医薬品情報学研究室）
- 1-09** 重篤な副作用防止のための診療録情報の活用
今野 彩（福井大学 医学部附属病院）

座長：賀川 義之(静岡県立大学薬学部)

- 2-01** 医療消費者によるインターネット上の医薬品情報の利用に関する研究
岸本 桂子(慶應義塾大学 薬学部 社会薬学講座)
- 2-02** 登録販売者の研修・情報収集および業務の実態調査とインターネットによる登録販売者間情報交換・研修システムの構築
三木 晶子(東京大学 大学院薬学系研究科)
- 2-03** インターネットオークションによる非ステロイド性消炎鎮痛貼付剤出品の現状調査
若林 進(杏林大学医学部付属病院 薬剤部)
- 2-04** テレビ番組は医師、薬剤師と一般生活者の医薬品使用意識にどのような影響を及ぼすか？
澤田 康文(東京大学 大学院薬学系研究科)

座長：大津 史子(名城大学薬学部)

- 2-05** フェニトインとティーエスワンの薬物相互作用に関する薬物動態学的モデル解析
佐藤 宏樹(東京大学 大学院薬学系研究科)
- 2-06** 高溶解性薬物の消化管吸収に対する食事の影響を規定する因子の解析
伊賀 千夏(東京医科大学病院 薬剤部)
- 2-07** ランダム化比較試験を対象としたメタアナリシスによる緑茶抽出物の脂質異常症に及ぼす影響
豊泉樹一郎(静岡県立大学大学院 薬学研究科 医薬品情報解析学講座)
- 2-08** 健康食品の摂取に伴う健康被害として報告される情報の因果関係評価判定法の検討
松本 圭司(静岡県立大学大学院 薬学研究科 医薬品情報解析学講座)
- 2-09** 健康食品と医薬品の併用に伴う有害事象事例の因果関係評価のためのアルゴリズムの信頼性の検討
加藤 竜維(静岡県立大学 薬学部)

特別講演

7月24日(土) 14:30～15:30 A会場

座長：山田 浩 (静岡県立大学薬学部)

【 これからの日本の医療・世界の医療
— 新型インフルエンザ対策から学ぶこと — 】

尾身 茂 自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門

教育講演1

7月25日(日) 9:40～10:30 A会場

座長：川上 純一 (浜松医科大学附属病院 薬剤部)

【 医薬品情報学と薬剤疫学：
エビデンスを「つたえる」ことと「つくる」こと 】

津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

教育講演2

7月25日(日) 10:40～11:30 A会場

座長：賀川 義之 (静岡県立大学薬学部)

【 サプリメントに関する適正な情報マネジメント 】

梅垣 敬三 (独)国立健康・栄養研究所 情報センター

大会長講演

7月24日(土) 13:45～14:25 A会場

座長：澤田 康文 (東京大学大学院薬学系研究科)

【 職種を超えて担う医薬品情報 】

山田 浩 静岡県立大学薬学部

これからの日本の医療・世界の医療 — 新型インフルエンザ対策から学ぶこと —

○尾身 茂

自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門

世界保健機関 (WHO) には、日本、シンガポール、ベトナムなど30数カ国の地域を受け持つ西太平洋事務局があり、新興・再興感染症・生活習慣病対策、保健医療システムの構築といった活動を展開している。特に感染症対策は最重要課題として取り組まれており、ポリオ（急性灰白髄炎）・結核・重症急性呼吸器症候群 (SARS)、AIDS、マラリア等の対策が行われている。ポリオは、生ワクチンの供給により WHO の目標であった2000年より3年早く、1997年に西太平洋地域で根絶した。

2009年の新型インフルエンザ (A/H1N1) のパンデミックな流行は、医療の現場に様々な波紋を投げかけた。

当初より重症化防止が我が国新型インフルエンザ対策の主目標であった。我が国の対策の特徴として、多くの感染者に対するタミフルの投与、全国的に実施された学校閉鎖がある。昨年11月のWHO公式発表によれば、人口100万人当たりの死亡率は日本：0.2、アメリカ：3.3、オーストラリア：8.6、アルゼンチン：14.6と、我が国の死亡率は諸外国の中で最も低く、またアメリカ等で見られた第二波も経験しなかった。あまり一般には知られていないが、誇るべきことである。しかし、既に指摘されているワクチン行政の見直しに加え、次回のパンデミックに備えいくつか改善すべき点も残った。

1点目：今回の国の基本計画は“高病原性”を想定していた。“高病原性”のイメージが強かった為に“水際作戦”から“地域対策”へ、更に“措置入院”から“一般病院”への転換が困難であった。一般に新しい感染症の特に初期段階では①情報が必ずしも十分でなく、最悪のシナリオを想定せざるを得ない場合もあること。②詳細な感染症対策計画が予め用意されていても“想定外”の事が起こり得ること。③新たな疫学情報が得られた場合に、速やかな方針変更も必要であり得ること等を“覚悟”する必要がある。

2点目：今回の新型インフルエンザは感染者の多くが軽症で終わるなど、季節性インフルエンザと類似点もあったが、基礎疾患を有する成人、健康な小児等が重症化する傾向が強い点で季節性インフルエンザとは異なっていた。また10mlと1mlのバイアルを併用した理由は、前者の製造効率が良く、“より早く、多く”ワクチンを市場に供給できる点であったが、こうした重要な情報が正確に伝わらなかった。次回への教訓は、リスクコミュニケーションの在り方の見直しであろう。

3点目：“措置入院”から“一般病院”への転換を始め、直面した“混乱”のかなりの部分は、感染力を縦軸に、重症度を横軸にした状況別対応策が用意されていれば防げたと思える。状況別対応策の作成が急務であろう。

4点目：今回のパンデミックにおいて、様々な不安、要請、苦情等の中で行われた政府の決断は概ね正しかったと考えているが、より重症度の高いパンデミックに備えての教訓は、医療関係者、専門家、地方自治体関係者、官僚等による技術的な議論のあと、より速やかに最終政治的判断がなされる仕組みの構築であろう。

医薬品情報学と薬剤疫学： エビデンスを「つたえる」ことと「つくる」こと

○津谷喜一郎

東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学

00年代後半からの薬剤疫学に関する関心の高まりには3つの理由が考えられる。

第1は、1990年代中頃に始まる世界的な「エビデンスに基づく医療」(evidence-based medicine: EBM)の影響である。そこでは研究デザインによりエビデンスの強さに「グレード」があることが基本的な要素であった。このうちエビデンスが強いランダム化比較試験(randomized controlled trial: RCT)で「つくられる」エビデンスに注目がそそがれた。しかしその後それがすべてではないとの認識が広がり、観察研究を主とする薬剤疫学研究で「つくられる」エビデンス、特に害(harm)やリスクに関するエビデンスの重要性が注目されることとなった。いささか古くなってきた用語の“EBM”の展開の一つの方向である。

第2は、薬学教育の変革である。2006年に6年制度が始まった。大学によって4年制度とのバランスはいろいろであるが、私の講座にも本年2010年4月から5年生が在籍している。過去の薬学教育では、化学物質に「効き目」のエビデンスが付与される臨床試験の論理・倫理・実際の教育がなおざりにされて来たが、この数年で様相が変わってきた。多くの学校で臨床試験や治験を教えるようになった。臨床試験はRCTなどの「前向き」のデザインであるが、ついで「横断型」のデザインや「後向き」のデザインでエビデンスを「つくる」薬剤疫学への関心が高まった。6年制卒業後の進路の一つである4年制の大学院教育の一環として、日本薬剤疫学会などで議論され始めている。

第3は、薬害の影響である。洋の東西を問わず薬事行政の進展はスキャンダルをバネにしていることは歴史が示している。薬害肝炎において原告と国が和解したことに伴い、2008年1月15日に基本合意書を取り交わされた。その合意に基づき「薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会」さらに「薬害肝炎の検証および再発防止に関する研究班」が設立された。それぞれ2年間の活動を行い、前者の最終提言(2010.4.28)において「専門家の育成と薬剤疫学研究等の促進」として、以下が記載された。

- 医薬品評価等の専門家を育成し、関連する研究を促進するための大学の講座や専門大学院が増設されるべきであり、厚生労働省は文部科学省とともに協力して、関係各教育機関の理解と協力を得るよう努めるべきである。
- とりわけ医薬品の安全性、有効性の検証等を行う薬剤疫学研究に関する講座を増やし、研究と人材育成の基盤を醸成することは焦眉の課題である。
- また、薬剤疫学的研究を促進するため、財政的基盤の整備と支援が必要である。政府からの多額の資金援助や企業からの拠出金によって「公的基金」を創設して研究の促進に役立っている諸外国の例なども参考に、公的資金やその他の中立的な研究資金の確保及び研究資金の配分を行い、必要に応じて企業から独立して実施される仕組みを検討する必要がある。

シンポジウム 1

7月24日(土) 10:15～12:15 A会場

座長：林 昌洋(虎の門病院 薬剤部)
飯嶋 久志(社団法人千葉県薬剤師会 薬事情報センター)

〔 地域連携における医薬品情報の共有 もう一つの医薬品情報源、お薬手帳 ～円滑な地域医療連携に向けて～ 〕

-
- S1-1** かかりつけ手帳を活用した地域医療連携への関わり
瀧 祐介(菊川市立総合病院薬剤科)
- S1-2** 薬局から提供する情報と受取れる情報
～地域連携での保険薬局の役割～
高橋 眞生(株式会社カネマタ カネマタ薬局)
- S1-3** 自立高齢者の口腔機能情報の活用について
～一生の口腔機能維持を目的とした健診の提案～
日暮 寛之(社団法人千葉県歯科医師会 地域保健医療委員会)
- S1-4** お薬手帳型 C 型慢性肝炎治療地域連携パスの有用性
～横浜市東部地域における保険薬局を介した取り組み～
江口 裕三(済生会横浜市東部病院薬剤部)

追加発言

山室 渡(済生会横浜市東部病院 消化器内科)

S1-1

かかりつけ手帳を活用した地域医療連携への関わり

○瀧 祐介

菊川市立総合病院 薬剤科

地域医療での患者様の継続した医薬品情報の情報共有は特に医療安全の観点から重要であり、お薬手帳は患者の医薬品に関する情報を一元的に管理できる有用なツールのひとつである。お薬手帳のメリットはどこの医療機関でも医薬品に関する情報が容易に把握できることである。デメリットとしては患者様が利用しようとしなければ意味をなさないものになる可能性があり、また、記載する情報が制限されることがあるという点である。

菊川市立総合病院のある小笠地区では平成18年3月より医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会により「かかりつけ手帳」が作成された。お薬手帳との違いは保険薬局だけの利用だけでなく、病院、診療所、歯医者等、様々な医療機関でも活用されているという点である。入院患者様におけるかかりつけ手帳の持参は診療報酬の改訂も伴い一般化してきている。

菊川市立総合病院に入院された患者様においてもかかりつけ手帳は大きな役割をはたしている。入院時には入院前の医薬品の動き、副作用・アレルギー等の情報把握に薬剤師だけでなく医師にも利用されている。また、退院時には入院中の経過、入院中の副作用、調剤方法、ジェネリック薬品の希望の有無、特記事項、等を記載し患者様に地域医療機関へ持参していつてもらっている。特に入院中の経過は医師の紹介状とは異なり、特に医薬品の動きに(薬剤の開始理由、中止、減量、増量理由、等)に重点をおいて記載している。記載内容は患者様向けというより医療機関に対して入院中の医薬品情報が伝わることに重点を置いている。

当地域のほとんどの医療機関では院外処方箋を発行しており、保険薬局での調剤が多い。この状況下では薬・薬連携を強化し医薬品情報の共有を通じて地域医療へ貢献していくことが重要と考えられる。

菊川市立総合病院では患者様の入院時に地域の保険薬局と連絡を取り患者様の情報を把握する取り組みを行っている。これにより病院薬剤師は医薬品情報に関してはかかりつけ手帳、診療情報提供書より詳細な情報を得ることができ、また、保険薬局は入院したという情報を得ることができるようになった。しかし、病院と保険薬局や保険薬局間同士での情報共有ができていない現状が挙げられた。この共有できていない情報も入院を機にかかりつけ手帳に記載することにより、情報を一元化し共有を図っている。かかりつけ手帳に記載することにより危険を回避できた症例も経験している。

ジェネリック薬品の普及に伴い、医薬品名称は多様化していく。特に重複の回避において保険薬局でのかかりつけ手帳による医薬品情報の管理は重要性が高まってくると考えられる。しかし、現状では各医療機関で一冊ずつ利用されていたり、患者様が医療機関に持参せず医薬品情報のシールのみ渡され患者様自身でかかりつけ手帳に貼付しているケースも見受けられる。

かかりつけ手帳で医薬品情報を一元管理し、質を高めていくことにより地域医療におけるかかりつけ手帳の有用性はさらに増していき、貢献できると考えられる。そのためには患者さまへのかかりつけ手帳の意義を啓蒙していく必要があり、各医療機関でかかりつけ手帳の情報を充実させていくよう努力していく必要があると考えられる。

S1-2

薬局から提供する情報と受取れる情報
— 地域連携での保険薬局の役割 —

○高橋 眞生

株式会社カネマタ カネマタ薬局

平成18年6月4日に医療制度改革関連法案が成立し、それには医療連携体制を構築し医療計画に明示するとなっています。それに基づいて各都道府県ではそれぞれ医療連携の見直しがなされました。千葉県では千葉県保健医療計画が見直され、医療福祉が連動する循環型連携がイメージされ、それぞれの連携にクリニカルパスを用いた情報の共有化が模索されています。

そのような中で薬局の機能から情報の役割を、大きく2つに分けることができます。1つは薬局に来局する患者に対するかかりつけ相談薬局として、また近隣の診療所に対する薬局としての情報発信の機能です。患者への服薬指導から得られる情報をフィードバックする形式のものとして、疑義照会やお薬手帳・後発医薬品変更後の情報、DSU から収集した最新の医薬品情報や薬局におけるヒヤリハット事例の報告なども有用な情報であると思われます。また生活習慣病、特に糖尿病・高血圧・高脂血症に代表されるメタボリックシンドロームと呼ばれている患者のハイリスク薬の服薬コンプライアンスを高め、副作用を未然に防いでいく服薬指導は薬剤師の本来の業務です。

2つ目の役割は、発症後、急性期・回復期を終え退院してから在宅に戻り、在宅で療養を続ける患者への訪問薬剤管理指導における医療連携での情報です。そこに関する他職種の方々と互いの情報のやりとりを通して医療連携を計り、患者の回復と再発の予防をしていくという役割です。そこにそれぞれの地域にあったパスが必要になります。急性期から在宅療養に到るまでの切れ目のない医療サービスを実行するにあたって、薬局が在宅で果たす薬剤管理(居宅療養管理指導等)は、患者が在宅で安心して過ごすために必要不可欠なものです。私どもの店舗がある船橋市では船橋南部在宅療養研究会を2年前に立ち上げ、病院の医師・診療所の医師・訪問看護師・ヘルパー・OT・PT・ケアマネージャー・地域包括支援センター職員に交じり、薬剤師が参加して、地域連携パスとスキルアップの研究会を開催しています。研究を通して顔の見える医療・介護連携が構築されており、病態ごとのパスの作成も出来つつあります。薬局の薬剤師もクリティカルパスに参加し、他の医療・福祉・介護関係者と共同でパスを作成することにより、安心・安全で快適な在宅生活を支援することができます。

ガン疼痛をはじめとして薬剤の中には、血中濃度を管理しながら適切な薬剤量を調整しなければならぬ薬剤もあります。適切な薬物治療のコントロールには、医師と薬剤師等による情報共有が不可欠であることから、円滑な連携に向けた関係者との情報がその地域に見合ったものとして共有化された媒体を構築し、医療・介護連携をすすめることが必要であります。

第13回日本医薬品情報学会・学術大会組織委員会

大会長

山田 浩 (静岡県立大学薬学部)

実行委員長

大貫 よし子 (総合病院 聖隷浜松病院 薬剤部)

実行委員

大石 順子 (静岡県薬剤師会医薬品情報管理センター)

賀川 義之 (静岡県立大学薬学部)

川上 純一 (浜松医科大学附属病院 薬剤部)

河原崎 貴伯 (静岡県立総合病院 薬剤部)

北川 俊朗 (菊川市立総合病院 薬剤部)

後藤 伸之 (名城大学薬学部)

望月 真弓 (慶応大学薬学部)

日本医薬品情報学会総会開催一覧

回	大会長	開催地	会場	開催年月日
日本医薬品情報学研究会				
1	山崎 幹夫(千葉大学名誉教授) 発足記念シンポジウム	東京	星薬科大学	1998. 05. 09
2	榊原 仁作(名城大学薬学部)	名古屋	名城大学	1999. 06. 12
3	上田 志朗(千葉大学大学院薬学研究科)	千葉	千葉大学けやき会館	2000. 07. 08
4	江戸 清人(福島県立医科大学附属病院薬剤部)	福島	福島テルサ	2001. 06. 23
日本医薬品情報学会				
5	戸部 敏(昭和大学薬学部)	東京	昭和大学上條講堂	2002. 06. 29-30
6	大森 栄(信州大学医学部附属病院薬学部)	松本	松本市中央公民館	2003. 06. 21-22
7	折井 孝男(NTT 東日本関東病院薬剤部) 林 昌洋(虎の門病院薬剤部)	東京	長井記念館ホール	2004. 06. 19-20
8	政田 幹夫(福井大学医学部附属病院薬剤部)	福井	福井商工会議所	2005. 06. 11-12
9	乾 賢一(京都大学医学部附属病院薬剤部)	京都	国立京都国際会館	2006. 07. 08-09
10	黒澤菜穂子(北海道薬科大学)	札幌	北海道大学 学術交流会館	2007. 07. 07-08
11	小清水敏昌(順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科)	東京	東京ビックサイト	2008. 07. 05-06
12	大石 了三(九州大学病院薬剤部)	福岡	九州大学 医学部百年講堂	2009. 07. 18-19
13	山田 浩(静岡県立大学薬学部教授)	静岡	アクトシティ浜松	2010. 07. 24-25

協賛企業一覧

謝 辞

平成 22 年 6 月 22 日現在

第 13 回日本医薬品情報学会総会・学術集会の運営に際し、ご援助・ご協力いただきました下記企業に謝意を表します。

アストラゼネカ株式会社
アルフレッサファーマ株式会社
エーザイ株式会社
小野薬品工業株式会社
杏林製薬株式会社
協和発酵キリン株式会社
サンド株式会社
サントリーウェルネス株式会社
塩野義製薬株式会社
第一三共株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
トーアエイヨー株式会社
日本アルコン株式会社
日本新薬株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
ノボ ノルディスクファーマ株式会社
バイエル薬品株式会社
バクスター株式会社
万有製薬株式会社
富士製薬工業株式会社
扶桑薬品工業株式会社
丸石製薬株式会社
明治製菓株式会社
持田製薬株式会社

(五十音順)

第13回
日本医薬品情報学会
総会・学術大会

平成22年7月5日発行

発行所：第13回日本医薬品情報学会・学術大会組織委員会

事務局：総合病院 聖隷浜松病院

〒430-8558 浜松市中区住吉2-12-12

TEL：053-474-2232 FAX：053-471-6050

編集責任者：山田 浩